

事例 25 倒伏した弥生杉の取扱いに係る検討会の開催

(九州森林管理局 屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター)



- ・ 鹿児島県^{くまげ}熊毛郡^{やくしまちよう}屋久島町 ^{みやのうらだけ}宮之浦嶽国有林
- ・ 倒伏した弥生杉の現地確認
- (令和6(2024)年10月)

- ・ 鹿児島県熊毛郡屋久島町
- 屋久島森林生態系保全センター
- ・ 検討会の様子(令和6(2024)年10月)

「屋久島自然休養林」(白谷雲水峡)内の「弥生杉」は、樹齢3,000年と推定され、多くの観光客が訪れる観光名所として親しまれてきました。しかし、幹の腐朽が進んでいたために、令和6(2024)年8月に発生した台風10号の影響により倒伏するに至りました。

屋久島森林管理署及び屋久島森林生態系保全センターでは、倒伏した弥生杉の今後の取扱いを検討するために、同年9月に外部有識者等から成る「弥生杉の取扱いに係る検討会」を設置し、現地調査や意見交換を行いました。

その結果、弥生杉を現地から運び出しての展示や復元をするのではなく、巨木が横たわる様子や植生が遷移していく過程を通じて大自然の力を感じてもらえるよう、倒伏した姿のまま現状保存することとしました。

今後は、倒伏前の写真や現状保存等の取扱方針を説明した看板を設置し、弥生杉周辺の遊歩道などの環境整備を予定しています。このような取組を通じて、適切に現地を保全管理するとともに、森林環境教育の場や観光資源として活用することとしています。